

徳之島事務所（令和7年8月分）管内情勢

農林水産業関連

1 糖蜜を利用した土壌還元消毒を検討

8月8日に天城町トルコギキョウ生産者ほ場にて、地域の未利用資源である糖蜜を利用した土壌還元消毒を行った。

当地域では、有害センチュウや土壌伝染性病害による被害が問題となっており、これまで焼酎かすを利用した土壌還元消毒に取り組んできた。

しかし、焼酎かすの散布や湛水後のビニル被覆は労力負担が大きい。そこで、今回は糖蜜を希釈し液肥混入機で散布する方法を検討した。

今後は、生育、労力、消毒効果、コストを慣行と比較し、評価する予定である。



2 次年度産に向けてマンゴーの整枝・せん定講習会を実施

8月5～7日に管内3町にてマンゴー栽培講習会を開催し、生産者・関係者計38人が参加した。

参加者の大半は今年度産の収穫が8割程度終了しており、次年度産に向けた整枝・せん定が始まるところであった。講習会では整枝・せん定方法を実演するとともに、病虫害防除や施肥管理などについても説明を行った。

当課では、次年度産の生産安定に向けた新梢管理などについて適期管理に向けた支援を行う。



3 新規出荷者を含むピタヤの出荷が始まる

8月7日に徳之島町にて令和7年度ピタヤ出荷協議会が開催され、生産者・関係者計9人が参加した。

今年度産は7月15日から出荷が始まっており、10月末まで出荷受入れを行う計画である。今期は、既存の生産者に加え、令和5年度に植え付けを行った生産者が初出荷を迎えることから、出荷量の増加が見込まれおり、出荷規格や等級について収穫果実を確認しながら目揃えを行った。

また、ピタヤは追熟しないため、適期収穫と出荷のポイントについても確認を行った。

4 第6回メロン青年勉強会～苗づくりを学ぶ～

8月18日に天城町農業センターにて、第6回メロン青年勉強会が開催され、生産者8人を含む計12人が出席した。

今回のテーマは「苗づくり」で、育苗管理や苗質の評価方法について学んだ。出席者から、「これまでは過かん水だったかもしれない。かん水量やかん水方法を見直していきたい。」との発言があり、意識改革が図られた。

また、今後、各自が定植前の苗を持ち寄って苗質調査を行うこととなった。調査結果を基に活発な意見交換がなされ、苗管理技術の向上につながることを期待される。

